



八戸工業大学

Hachinohe Institute of Technology

本学の教育について

大学で学ぶこと

大学の目的は次のように決められています。

大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させることを目的とする。

学校教育法第 83 条

要は、大学は専門の技術とともに、教養ある人間として、社会に貢献できる人物を育成するところといえます。

本学では、「良き技術は、良き人格から生まれる」という教育理念を定めています。この理念は、「良き職業人となるためには、高度な専門知識とともに豊かな人間性と総合的な判断力をもつ」ことが必要であることを意味しています。本学では、この理念にそった人材を育成するため、**全学共通の教育目標を掲げ、種々の方法で実施した達成度評価を学生自らの成長に結びつける体制を整えています。また教育目標は、各学部、学科ごとにも定められており、ここでは、工学部、感性デザイン学部それぞれの教育目標を次に示します。**

工学部の教育目標

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とする工学の素養をもった**人材**を育成する
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力

をもった**人材**を育成する

- 3) 工学基礎原理の理解とそれらの高度応用展開力をもった**人材**を育成する
- 4) 地域社会への関心をもつとともにグローバルな視野で物事を考えることができる**人材**を育成する

感性デザイン学部の教育目標

- 1) 豊かな人間性と総合的な判断力を基盤とするデザインの素養をもった人材を育成する
- 2) 社会の変化に対応できる柔軟な思考力をもった**人材**を育成する
- 3) デザインの諸原理の理解とそれらの応用・展開力をもった**人材**を育成する
- 4) 公共的問題や地域社会が抱える問題を自ら発見し、デザイン手法を用いて解決する力をもった**人材**を育成する
- 5) 多文化、異文化を理解し、グローバルな視点でモノを考えることができ、それを課題解決に活かす力をもった**人材**を育成する

この教育目標を実現するため、教育課程（**カリキュラム**）が編成されています。

カリキュラムは、学科ごとに系統的に組まれています。各学科に即した専門科目と合わせて、人間形成に求められる教養科目を1学年～4学年までバランスよく学修できるよう配慮しています。

また、大学での新しい環境にいち早くなじんでもらうために、入学式直後のガイダンスに加え、新入学生オリエンテーションを実施しています。

教育研究を支援する組織

本学は、教育や研究を行うために図1のような組織で構成されています。

■学部・学科

各学部・学科では具体的な教育と研究が行われます。

■基礎教育研究センター

教養教育とその基礎、教職、及び専門教育の基礎に係る教育課程の企画及び円滑な

実施を図るとともに、基礎教育に関する研究開発ならびに学修支援を行う機関です。

■地域産業総合研究所

エネルギーと環境およびそれらに関連するシステムの研究を推進するために研究に取り組み、科学技術の進歩と地域社会への貢献をめざす機関です。

■工作技術センター

機械工作実習等の教育を担当するとともに、教員の研究に必要な器具や装置を製作する機関です。

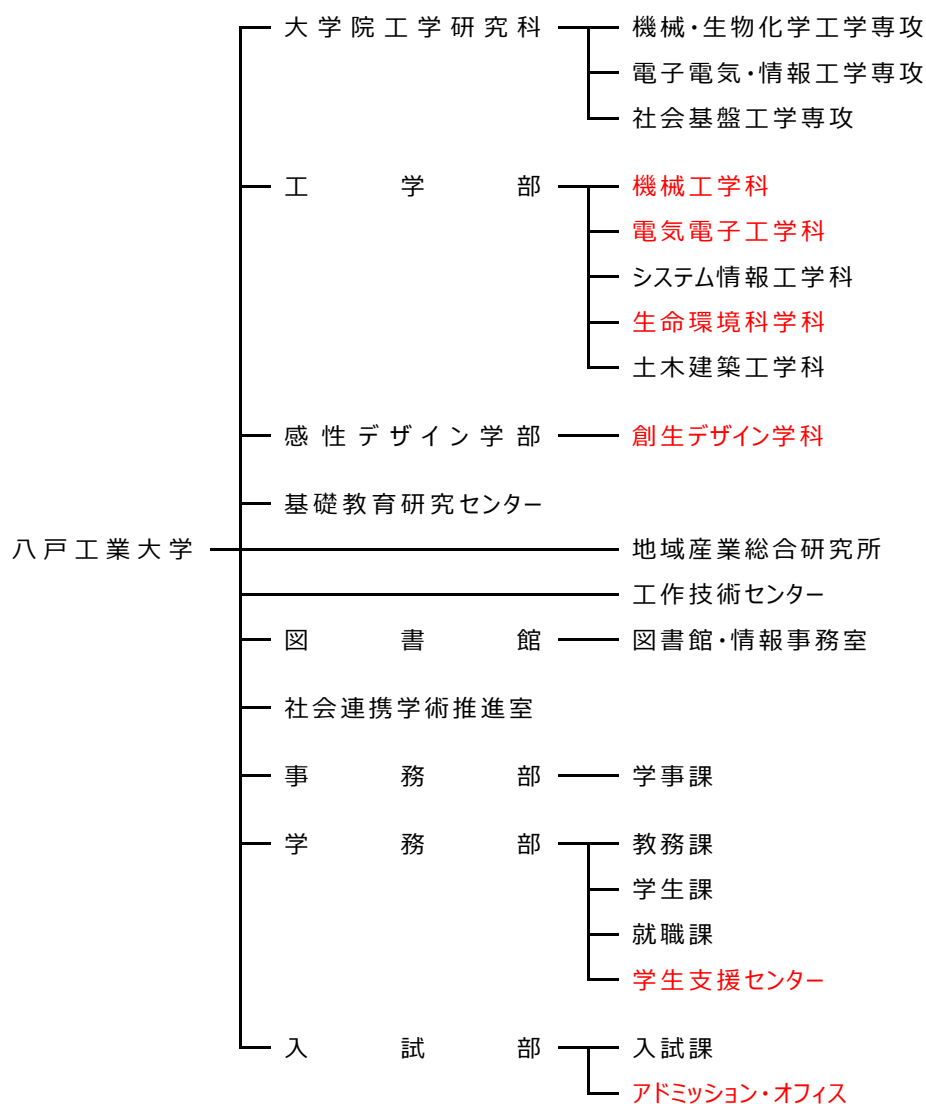


図1 八戸工業大学の組織



■図書館

教育研究活動に必要な図書、雑誌および視聴覚資料などを通じた情報のサービスを行う機関です。

■社会連携学術推進室

大学の組織及び教育研究活動を点検評価し、必要な改革・改善を実施、また、産学官連携による共同研究、社会貢献および知的財産の創出について検討・実施する機関です。

■事務部

事務部には、入学式など式典の実施、学生の残留届などの事務手続、建物の維持・管理や保護者後援会の事務を担当する学事課があります。

■学務部

履修、試験、単位修得、進級と卒業などの教務を担当する教務課、健康管理、住居、奨学金、学生相談・課外活動などの学生生活を担当する学生課、および求人開拓、就職の斡旋・情報提供などを含めた就職指導を担当する就職課、**および様々な理由で修学上の困難を感じている学生に対してサポートを行う学生支援センター**があります。

■入試部

学生募集と入学試験を担当する入試課があります。

学修について

ここでは、学生が本学でどのようにして学びたい授業を受け、進級し、そして卒業できるかについて述べます。

■履修から単位修得まで

授業を受けることを**履修する**といいます。それぞれの授業科目には、授業時間数に応じて**単位数**が定められています。履修登録をして、授業を受け、試験に合格することで単位を修得できます。修得した単位数の合計を修得単位数といいます。

1単位を修得するためには、45時間の学修が必要とされています。例えば教室で15時間の授業を受けた場合には、自分で勉強する30時間(予習復習など)を加え、さらに試験に合格する必要があります。

したがって、授業を受けた後、その内容を十分に理解するように自習する習慣をつけることが肝要です。そのつど学習して積み重ねることを意識するのが良いでしょう。

■必修科目と選択科目

授業科目には、必ず修得しなければならない**必修科目**と、選んで履修できる**選択科目**があります。必修のほかにも選択科目を用意して、学生の希望に合わせて自由に授業科目を選べるように配慮しています。

■学期と開講時期

本学の学期は、図2のように4月1日から9月15日までの前期と、9月16日から3月31日までの後期に分かれています。それぞれの授業科目は、**前期開講**、**後期開講**、1年を通しての**通年開講**と3種類の期間で授業が行われます。また、特定の期間に集中して授業を行う**集中講義**と呼ばれるものがあります。

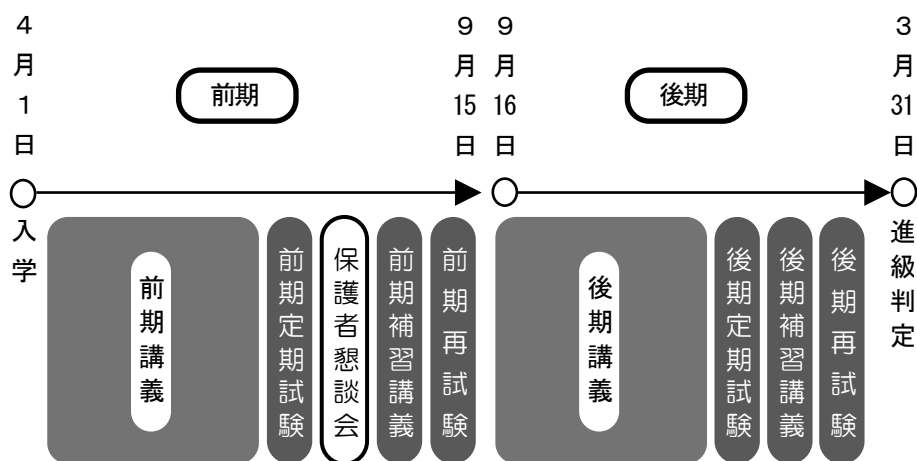


図2 1年間のスケジュール

学習支援

■リメディアル科目

大学教育に必要な学力を身に付けるため、1 学年に数学、英語、~~物理~~のリメディアル科目を開講しています。入学式翌日の開講試験結果により、対象者に受講を推奨しています。

■学修支援室

教員への学習の質問、大学生活全般の相談や自習室・談話室として利用できる「学修支援室」が本館西側 2 F にあります。相談員が在室しており、昼休みには相談補助員（4 学年学生）が待機して、学修の仕方・大学生活の相談内容等に応じています。

欠席はしないように

出席時数が授業時数の 3 分の 2 に満たない場合は、原則として試験を受けられません。なお、体育科目はその性質上 5 分の 4 以上の出席時数がなければなりません。

大きなチェックポイント／試験

単位を修得するためには、試験を受け合格しなければなりません。実験、実習、演習および実技の科目では平常の成績で評価されることもあります。

評価

- ・評価は S、A、B、C、D で行われ、S、A、B、C は合格、D は不合格です。

■定期試験

前期および後期の決められた期間に行われます。

■追試験

病気・けがなどやむを得ない理由により定期試験が受けられなかった学生が受けるものです。追試験を受ける場合は、追試験受験手続き（500 円）が必要です。

■再試験

定期試験や追試験に合格できなかった学生に対して行われるものです。再試験を受ける場合は、

再試験受験手続き（1500 円）が必要です。

■成績発表

可否については前期、後期のそれぞれの終了後に**学業成績通知書**として学生本人へ通知されます。また、保護者へもその内容を郵送しますので学生の修学状況を知ることができます。

進級するには

本学では、履修を円滑に進めてもらうために各学年に【表 1】のような**進級要件**を定めています。進級要件は上級学年への進級に必要な最低限の単位数です。表の中の単位数以上を修得することが条件です。上段の修得単位数は、必修科目と選択科目の合計を表しています。下段は、そのうちの必修単位数です。この進級要件を満たさない場合は同じ学年に留年となり、卒業までにもう一年要することになってしまいます。

留年の原因、事情には次の理由が多く指摘されています。

- ①学力不足で授業に出席しても理解できない。
- ②勉学意欲の不足で授業を欠席する。
- ③アルバイトで欠席が多くなる。
- ④講義を聴いていない。
- ⑤授業にノートや教科書を持ってこない。
- ⑥課題・レポートを提出しない。

留年を避けるために、学生自らが勉学意欲を向上するように努める必要があります。

また、担任をはじめとして全学をあげて学生の履修および学修指導に力を入れています。不明な点は何でも相談してください。

単位はどれくらい取ればいいのか

順調に単位修得が出来ているかの目標値として、【表 2】のように**標準修得単位数**が定められています。おおむね一年間に 40 単位程度修得するように学修してください。

【表1 進級要件】

平成30年度入学生に適用
(学籍番号：G18****～)

(数字は単位数)

学 科	学年	修得単位数	必修単位数	その他要件				
機 械 工 学 科	1 学年	25	7					
	2 学年	60	22					
	3 学年	95	40					
電 気 電 子 工 学 科	1 学年	28	12					
	2 学年	60	34					
	3 学年	97	50	<ul style="list-style-type: none"> ・電気電子工学入門と電気電子工学概論を修得のこと ・物理学実験と化学実験のいずれかを修得のこと ・基幹科目 16 単位中 12 単位以上修得のこと <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">基幹科目</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">電磁気学Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">電気回路Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">電気回路演習Ⅰ、Ⅱ</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・創造工学実験と電気電子基礎実験を修得のこと 	基幹科目	電磁気学Ⅰ、Ⅱ	電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ	電気回路Ⅰ、Ⅱ
基幹科目								
電磁気学Ⅰ、Ⅱ								
電磁気学演習Ⅰ、Ⅱ								
電気回路Ⅰ、Ⅱ								
電気回路演習Ⅰ、Ⅱ								
システム情報工学科	1 学年	25	10					
	2 学年	60	25					
	3 学年	100	35	・情報工学基礎実験Ⅰ・Ⅱを修得のこと				
生 命 環 境 科 学 科	1 学年	25	12					
	2 学年	60	30					
	3 学年	100	47	・生命環境科学基礎実験、生命環境科学実験Ⅰ・Ⅱを修得のこと				
土 木 建 築 工 学 科	1 学年	25	10					
	2 学年	60	20					
	3 学年	100	30					
創 生 デ ザ イ ン 学 科	1 学年	28	12					
	2 学年	60	12					
	3 学年	98	14					

【表2 標準修得単位数】

平成30年度入学生に適用
(学籍番号：G18****～)

(数字は単位数)

学 科	1 学年	2 学年	3 学年
機 械 工 学 科	35	75	115
電 気 電 子 工 学 科	38	78	118
システム情報工学科	35	75	110
生 命 環 境 科 学 科	35	75	115
土 木 建 築 工 学 科	35	75	115
創 生 デ ザ イ ン 学 科	38	78	118

卒業するために

卒業するためには次の条件が必要となります。

- ①4年以上修業する。(休学期間は含まない)
- ②各学科教育課程に設定されている導入転換科目、総合教養科目、工学基礎科目、専門科目などの区分から、定められた単位数以上を修得する。

③全ての必修科目を修得し、総計124単位数以上を修得する。

以上の単位修得条件を、学科ごとにまとめたのが【表3】です。

【表3 卒業要件】

平成30年度入学生に適用

(学籍番号：G18****～)

(数字は単位数)

学 科	導入転換科目	総合教養科目	工学基礎科目	専門科目	区分なし ※注1	卒業 単位数
機 械 工 学 科	3	24	14	70	13	124
電 気 電 子 工 学 科	4	20	14	70	16	124
システム情報工学科	6	20	16	70	12	124
生命環境科学科	4	20	4	70	26	124
土木建築工学科	4	26	22	72	0	124

学 科	導入転換科目	総合教養科目	専門科目	区分なし ※注2	卒業 単位数
創 生 デ ザ イ ン 学 科	2	32	80	10	124

注1) 工学部区分なしの単位は、次の科目からも修得できます。

- ・導入転換科目
- ・総合教養科目
- ・工学基礎科目
- ・専門科目
- ・他学部・他学科科目
- ・単位互換科目
- ・特別専攻科目 (特別養成コース学生のみ)

注2) 感性デザイン学部区分なしの単位は、次の科目からも修得できます。

- ・導入転換科目
- ・総合教養科目
- ・専門科目
- ・他学部・他学科科目
- ・単位互換科目
- ・特別専攻科目 (特別養成コース学生のみ)

注3) 次の科目は卒業に要する単位数には加算されません。

- ・教育職員免許状取得に関する科目や資格取得に関する科目など、各学科の教育課程表に含まれていない科目

GPA制度について

GPAとは Grade Point Average の略で、履修した1単位当たりの評価平均値を求めたものです。GPAを算出することにより学修の到達度を明確にし、より高いGPAを目指して学修意欲が向上することをねらいの一つとしています。

■評価とGP (Grade Point)

前述の「試験」に関する部分で、成績はS～Dで評価されると記しましたが、その評価ごとにポイントが設定されています。

合格	評価	評価基準	GP
合格	S	90～100	4
	A	80～89	3
	B	70～79	2
	C	60～69	1
不合格	N	認定	—
不合格	D	59以下	0

※認定(N)：編入学などの場合に既修得単位を評価なしで認めた場合。GPAの計算には使用しません。

■GPAの計算方法

本学ではGPAを「学期」、「年度」、「累積」の三種類(期間)について計算します。

計算の参考例としてA君とB君の学期GPAを求めてみます。ある学期の二人の履修登録内容とその結果が次表のとおりとします

A君の場合

※GP値=単位×GP

科目名	登録単位	評価：(GP)	修得単位	GP値
科目A	1	S：(4)	1	4
科目B	2	A：(3)	2	6
科目C	2	A：(3)	2	6
科目D	2	B：(2)	2	4
科目E	1	A：(3)	1	3
科目F	2	S：(4)	2	8
科目G	2	A：(3)	2	6
科目H	1	S：(4)	1	4
科目I	2	A：(3)	2	6
科目J	2	B：(2)	2	4
計	17		17	51

B君の場合

※GP値=単位×GP

科目名	登録単位	評価：(GP)	修得単位	GP値
科目A	1	S：(4)	1	4
科目B	2	A：(3)	2	6
科目C	2	A：(3)	2	6
科目D	2	B：(2)	2	4
科目E	1	A：(3)	1	3
科目F	2	S：(4)	2	8
科目G	2	A：(3)	2	6
科目H	1	S：(4)	1	4
科目I	2	A：(3)	2	6
科目J	2	D：(0)	—	0
科目K	2	C：(1)	2	2
科目L	1	B：(2)	1	2
計	20		18	51

ここで、A君とB君は科目A～科目Iまでは全く同じ評価ですが、B君は科目Jの評価がD(不合格)となっています。また、GP値の計は同じですが、履修登録した単位数、修得単位数はB君の方が高くなっています。

学期GPAは下記の計算式で求められます

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{学期の(修得した科目の単位数} \times \text{GPの計)}}{\text{学期の(評価を受けた科目の単位数の計)}}$$

○A君の学期GPAは

$$\frac{51 \text{ (GP値の計)}}{17 \text{ (登録単位計)}} = 3.00$$

○B君の学期GPAは

$$\frac{51 \text{ (GP値の計)}}{20 \text{ (登録単位計)}} = 2.55$$

■GPAの見方

計算結果から、B君の方が修得した単位数は1単位多いものの、A君の方のGPAが高い値となりました。このことから、A君は平均してA評価相当で単位を修得しており、高い到達度で学修していることが分かります。B君の例でも分かる通り、不合格科目やC評価が増えると、多くの単位を修得したとしてもGPAは低く抑えられます。

GPAは客観的な数値として、個人の学修到達度を示します。この値を高いものにするため、高い評価で単位を修得する、また、履修登録した科

目は途中であきらめずに確実に単位を修得することが肝要です。

■GPAの通知

GPAは学期ごとに学業成績通知書に記載して学生および保護者の方にお知らせします。学業成績通知書では、単位の修得状況とあわせてGPAも確認していただき、より高い値を目指して学修されるよう期待します。

担任制度について

大学では学生の自主性を尊重していますので、自分の将来の進む道を考えて、自ら履修計画を立てることができます。とはいえ、やはりとまどうこと、わからないことなど、学生生活ではさまざまな障害が出てきます。これに応えるのが**担任教員**です。担任は各学科、学年ごとに配置されていますので気軽に研究室のドアをノックしてください。

また、何かあった時には、担任から学生本人や保護者に連絡する場合がありますので、よろしくお願いたします。



八戸工業大学大学院

科学技術の進歩に伴い、大学で学ぶべき事柄はより幅広く、さらに奥深くなっています。このことから、より深い知識と経験を兼ね備えた大学院修了生に対する社会からの期待は一層高まっています。このような社会の要請を受けて、八戸工業大学では次の3つの専攻を持った大学院工学研究科を設置しています。

専攻	主として関連する学科
機械・生物化学工学専攻	機械工学科 生命環境科学科 システム情報工学科
電子電気・情報工学専攻	電気電子工学科 システム情報工学科
社会基盤工学専攻	土木建築工学科



大学院進学の特長

大学院では大学院教員の指導の下で、本学で進められている研究プロジェクトなどに参加し、それを通じて次のような事柄を体験します。

- 研究の見通し、計画を立てる。
- 実験、解析に必要な資材の調達、装置の製作、整備を行う。
- 注意深く実験、解析を進め、結果を整理、分析、考察する。

●結果を論文や報告書にとりまとめ、発表する。

これらの体験により、社会に出てから出会う大規模で難しい仕事や問題に気後れすることなく取り組み、責任を持って完遂する力を養います。最初に述べた「より深い知識」に加えて、このことが、多くの企業が大学院修了生を優先的に採用する理由です。もちろんメーカーでの設計・開発職、技術系公務員、研究機関の연구원など、研究・開発職への就職にも有利です。また、大学で教員免許（高一種(工業)・中一種(技術)）を取得した場合は、高専修(工業)や中専修(技術)の教員免許を取得することも可能です。

大学院の就業年限と学位

博士前期課程では2年間で修士(工学)の学位を取得します。さらに博士後期課程に進み、3年間で博士(工学)の学位を取得する進路もあります。

学費

八戸工業大学大学院では八戸工業大学からの進学者には入学金 25 万円を免除しています。これにより、初年度の学費は国公立大学大学院とほとんど同じとなっています。

奨学金（博士前期課程）

種別	月額（平成 30 年度）
第一種奨学金 （無利子）	5 万円または 8 万 8 千円 のいずれか選択
第二種奨学金 （有利子）	5 万円、8 万円、10 万円、 13 万円、15 万円 のいずれか選択

TA（ティーチング・アシスタント）制度

学部の授業で教員の補助を行う TA 制度により、多数の大学院生が教育現場の経験を積むとともに、経済的な支援を受けられます。

保護者懇談会

親元から離れると学生の様子が分かりにくくなるものです。また、大学について疑問に思うことなど多々あるかと思います。そこで、9 月頃に保護者と教職員が個人面談などを行う「**保護者懇談会**」を設けています。あらかじめ大学から保護者の方へ連絡を致しますので、是非ご参加ください。各地の主要都市で開催しますので、遠隔地の方は大学までいらっしゃる手間が省けます。

望むこと

大学では学生の教育と研究に対して教職員一丸となって取り組んでおります。大学で過ごす4年間は人生の短い一時期ですが、社会に巣立つ直前の大切な時期でもあります。学生諸君には、学問を享受し、親交を深め、様々な経験を通して人生設計を描くとともに、目標を定め、邁進することを期待しています。

問い合わせ先

〒031-8501

青森県八戸市大字妙字大開 88-1

八戸工業大学 学務部 教務課

Tel: 0178-25-8025